

勉強に悩んでいる学生さんへ

1980年頃の私は、成績の悪い大学2年生でした。

医療系の学部だったため、何でもものすごく難しく、恋愛に夢中になったり、オートバイやサーフィンに明け暮れて、完全に落ちこぼれていっていました。

「このままだと医療従事者の国家試験に落ちてしまうなあ」とか「自分は医療従事者には向いていない」などと考えるようになり、重圧から逃げるために退学を考えることもありました。

ある日、漢学を教えてくれている先生に

「あなたに孔子の言葉を贈ります」といって「老者安之、朋友信之、少者懐之」という漢文が書かれた紙をいただきました。

読み方は「ろうしゃはこれをやすんじ、ほうゆうはこれをしんじ、しょうしゃはこれをなつけん」で、「高齢者には安心を与え、友人からは信頼され、若い人からは慕われる人間になりなさい」という意味でした。この言葉は、一生忘れないでいます。

漢学の先生が私のことを看てくれていることがわかり、頑張っって国家試験合格に向けて勉強をする決意をしたわけです。

私が行った勉強法は、「何か一つ得意な教科を見つける」というものでした。

当時、親戚の女の子が白血病で苦しんでいたの、「白血病について知識があれば」と考えて、「血液学」を集中して勉強することにしました。当時、人間の免疫力は血液中の白血球によるものだろうと解明されつつあったので、血液学の中でも白血球を専門に知識を増やしていきました。

医学系の学問は、基礎医学だけでも「解剖学」「生理学」「生化学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「血液学」「免疫学」「医用電子工学」「法医学」など、ものすごい科目があります。ほかに専門科目になると、とんでもない数になります。一点集中型で勉強する方法が自分には合っていたみたいで、関連する事柄を知識として増やしていくと、解剖学、免疫学、病理学、生理学などの関係部分がつながって、大きな知識となっていました。

当時はインターネットがなかったので、図書館での文献検索に時間を大きくとられてしまい、恋愛やオートバイなどのお遊びは減っていきました。あと、現代のように骨髄移植で白血病を治す方法が確立していなかったの、残念ながら女の子は19歳で亡くなってしまいました。大きな喪失感を持つことになりましたが、勉強に向かう使命感のような「何か」を掴んだキッカケになりました。

それ以後は、知識が指数的に増えていき、前向きに国家試験に臨む学生になりました。

自分に合った学習方法を見つけさえすれば、なんとかなると思います。

たとえ、資格試験のハードルが超えられなくても、何度もチャレンジする気概が身に付くし、社会人になってからの自分創りがしやすいと思います。

以上、私の勉強スタイルのお話しでした。

一点集中型っちゆうわけです。